

富山県立山町総合公園内

野沢狐幅遺跡

緊急発掘調査概要 I

1983年3月

立山町教育委員会

序

近年経済成長、技術革新等の新しい社会的条件の下で、これまでのレジャースポーツ生活から日常生活の中で、スポーツレクリエーション等の時間消費的余暇活動への志向が高まり、皆が気軽に利用できるオープンスペーススポーツ施設が求められています。

立山町においても町制施行30周年記念事業として総合公園の建設計画が進められておりますが、この事業に先立つて文化財保護の見地から野沢狐幅遺跡の発掘調査を行ったのであります。

その結果、集落跡とみられる遺構とともに遺物が確認されました。

今回の調査は関係者のご理解と、多くの人々の参加・協力を得て実施することができました。

本書は過去の生活の場として辿った歩みを発掘調査を通して具体的にさぐり出し、残された史実の記録として作成されました。

本書が埋蔵文化財の愛護と研究、そして遺跡の理解に益することになれば幸いに思います。

末文ながらこの調査に協力いただいた富山県埋蔵文化財センターをはじめ関係各位に深く謝意を申し上げます。

昭和58年3月

立山町教育委員会

目 次

序	
例 言	
I 遺跡の位置と周辺	1
第1図 地形と周辺の 遺跡	1
II 調査の概要	2
第2図 地形と発掘区	3
遺構	4
遺物	5
III 調査の結果	6
年 表	7

例 言

1. 本書は、立山町総合公園野球場予定地内に存在する野沢狐幅遺跡の範囲・遺構・遺物包含層の存否を確認することを目的とした発掘調査の報告である。
2. 調査は、約8000m²を対象として昭和57年11月9日から同年12月8日まで延7日間実施した。調査総面積は、1527m²である。
3. 調査は、富山県埋蔵文化財センターから調査員の派遣を得て、立山町教育委員会が実施した。
4. 調査参加者は、下記のとおりである。
 調査担当者 富山県埋蔵文化財センター文化財保護主事 酒井重洋
 調査参加者 土肥久雄・泉野三郎・城戸義秋・城戸幸次郎・城戸喜則・泉野重次・高木隆盛・土井喜代嗣・土井喜三郎・土肥久信・石田利宗・堀田悦雄・城戸トシイ・泉野ミキ・土井アヤ・沢崎ハル子・長沢紀美子・城戸コノエ・城戸サチ子・泉野ミツ子・高木和子・城戸トミ子・城戸ハツ枝・沢崎敏枝・沢崎邦子・泉野幸子・土肥ミツイ・土肥ミツエ・橋場クニエ・山崎淑枝・藤畠ハルエ・山崎エミ子・小池ミヨエ・小池スミエ・細川ミツエ・石田ミツエ・土井クニコ・渡辺玲子・藤畠キエ・大畑みき・村上ミドリ・西井ミノリ・西井一三枝・小池スズ子・西井八重子・小池悦子・高木マツエ・藤畠淳子
5. 調査事務局は、立山町教育委員会社会教育課に置き、庶務を主事渡辺久雄が担当し、課長荒木慶一が総括した。
6. 本書の編集・執筆は、埋蔵文化財センター所員の助言・協力を受けて酒井重洋が行なった。

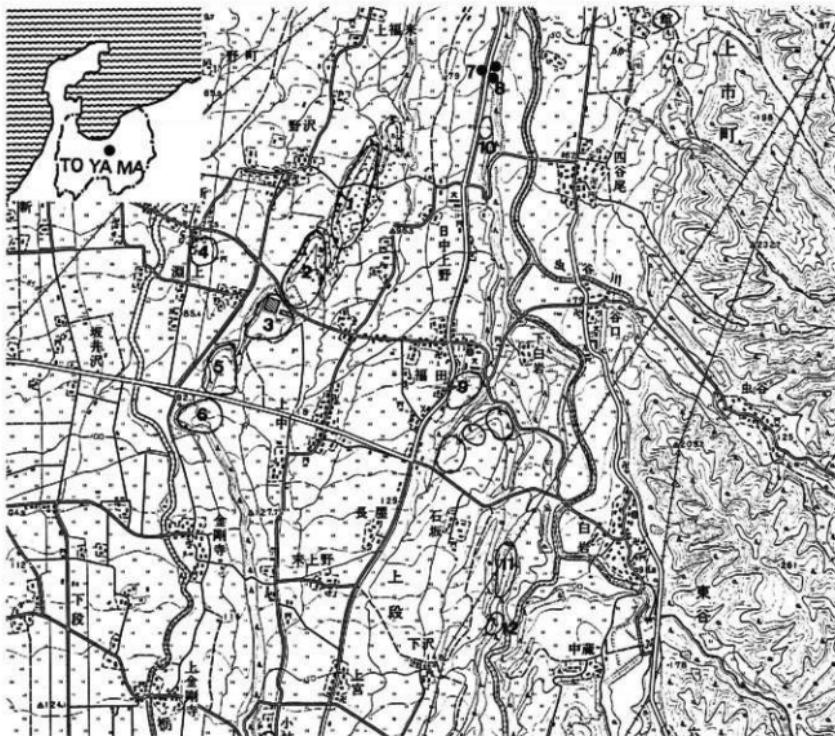
I 遺跡の位置と周辺

立山連峰に源を発し、富山県のはば中央部を貫流する常願寺川の右岸には、旧常願寺川扇状地が隆起してきた河岸段丘が発達し、上下7段におよぶ連続した段丘地形となっている。中でも上段段丘上には、数多くの遺跡が立地し、先土器時代のユニットが4ヶ所と縄文時代中期前葉の住居跡6棟が発見された白岩戸ノ上遺跡（先土器・縄文早～中期）を初め、白岩尾掛遺跡（縄文草創～中期）・野沢苦情池遺跡（縄文中期）・野沢竜ヶ鼻遺跡（縄文中期）・白岩根骨遺跡（縄文晚期）・日中藤ノ段遺跡（縄文中期）・日中源平腰遺跡（縄文早・前・古墳）など多くの遺跡がみられる。

これらの遺跡は、上段段丘が小支谷により開折された小丘陵上に点々と立地し、県下でも遺跡数の多い地域である。

野沢狐幅遺跡は、南北にのびる上段段丘のはば中央部の常願寺川に面する幅約50m、長さ約200mの小丘陵上に位置する。この東側には、開折された小支谷がはいり込み約200mへだてた対岸には、野沢大谷遺跡が立地する。大谷遺跡も狐幅遺跡同様に、東側を小支谷により開折された幅100m、長さ500mの丘陵上に立地する。

このように、上段段丘上の小丘陵は先土器時代・縄文時代には、人々が生活を営むに適した環境であったと考えられる（第1図）。



第1図 地形と周辺の遺跡(1/25,000) 1. 野沢大谷遺跡 2. 野沢狐幅遺跡 3. 野沢苦情池遺跡 4. 金剛新遺跡
5. 野沢竜ヶ鼻遺跡 6. 末上野竜ヶ浜遺跡 7. 日中東経塚 8. 日中玉橋経塚 9. 白岩根骨遺跡 10. 日中上野東林遺跡
11. 白岩戸ノ上遺跡 12. 白岩尾掛遺跡

II 調査の概要

1 調査に至るまで

立山町では、町制30周年を迎えるにあたり、町民のスポーツ振興策の一環、またいよいよの広場として野沢地内に総面積約18haの総合公園計画を企画し、マスタープランの作製が行われた。しかし、同地内には、野沢狐幅遺跡・野沢大谷遺跡の2遺跡の存在がすでに知られており、立山町建設課・同教育委員会・富山県教育委員会の三者により、遺跡の保護と工事計画との調整をはかることとして事前協議が催された。

協議では、上段段丘上は、遺跡の多数存在する地域であり、まず公園計画地内の分布調査を実施し、遺跡の有無を確認し、遺跡の措置を考えることとして合意した。

昭和57年4月には、協議をうけ富山県埋蔵文化財センターは、延2日間で同地内約18haの分布調査を行った。その結果、野沢狐幅・同大谷地内にはほぼ全域に遺物の散布がみられ野沢狐幅遺跡(縄文中期)・野沢大谷遺跡(縄文中・晚期)の存在が確認された。

また、分布調査では、水田のため遺物が確認されなかった日中上野字竹俵地内にも地形から見ると遺跡の存在する可能性を残す。

分布調査の結果をもとに三者による協議が行われ、マスタープランで切土工事となる野沢狐幅遺跡の約8000m²に対して遺跡の内容・範囲の確認を目的とした調査を実施し、遺跡の保護措置を考えることとして三者が合意した。

2 第1次調査

調査は、立山町教育委員会が主催し、富山県埋蔵文化財センターの協力をうけて昭和57年11月9日から同年12月8日まで延7日間で実施した。

調査は、造成工事が予定される約8000m²を対象として幅1mのトレンチを5m間隔に設け、遺跡の内容・範囲の確認を行った。総発掘面積は1527m²である。

層序は、1層耕作土(20~40cm)・2層黒色土(20



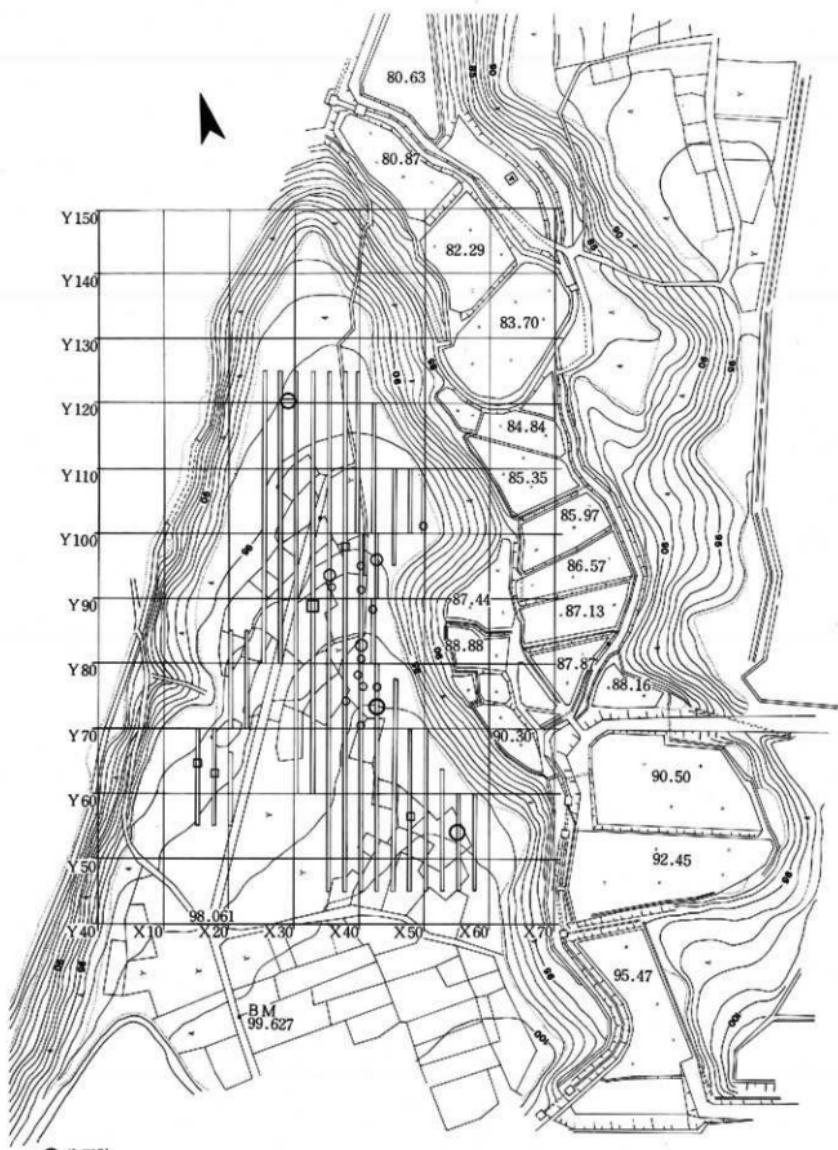
遺跡遠景 北より



発掘区遠景 南より



発掘作業状況



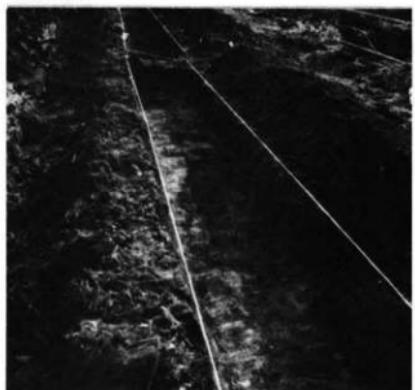
第2図 地形と発掘区 (1/1,500)



発掘区遠景 東より



穴検出状況



穴検出状況

cm)・3層地山漸移層(10cm)・4層地山(黄褐色土)となる。しかし、台地上では、2層がほとんどみられず、小支谷内に2~4層の堆積がみられる。地山層は、4層(黄褐色土)と5層(黄白褐色土)に分かれ、台地端部では4層がみられず5層または疊まりの黄褐色土層となる。このことから4層は、すでに流失したと考えられる。また、台地西側で深掘りを行ったが先土器時代の遺物は認められない。

遺構(第2図)

検出した遺構は、縄文時代に属するものと近世のものがある。

縄文時代の遺構は、台地上の小高くなった東側部分から先端にかけての縁辺部に多くみられ、台地西側にはみられない。竪穴住居跡は、X55Y52付近・X45Y73付近に縄文時代中期前葉のものが各1棟づつ、X30Y120付近に同中期中葉のものを1棟の計3棟検出した。また、X40Y82付近・X43Y95付近には、茶褐色土の落ち込みがみられ住居跡である可能性をもつ。

穴は、台地東側部に散在し、縄文時代中期前葉から中葉にかけてのもので12ヶ所を検出した。平面形は、直径1mほどの円形で貯蔵穴と考えられるものと、土壙状の長方形のものがみられる。近世の遺構には、直径1mの円形の穴と、2m×3mほどの長方形のものがある。

両者の覆土には、多量の炭化物が含まれていることか



住居跡検出状況

ら炭焼用の穴と考えられ、台地上に点々と検出された。

遺物

遺物には、縄文時代の土器・石器、古墳時代の土器1点、近世の陶磁器がある。

土器 細かな梢円文(1)と格子目文(2)の回転押形文土器が出土しており縄文時代早期に位置づけられる。また、胎土に植物繊維を含み、器面に条痕や縄文を施す4~6があり縄文時代早期末~前期初頭の土器である。

縄文時代中期の土器は、起隆帶により三角に区切られた中を爪形文を連続して施す7や、「B」字状の入り組んだ文様を施す10・11などの中期前葉の土器と、撚糸文や複雜な渦巻き文様を施す12~14があり、中期中葉に位置づけられる。

縄文時代晩期の土器は、器面に条痕を施す16・17や口縁部に眼鏡状の文様を付ける18がある。

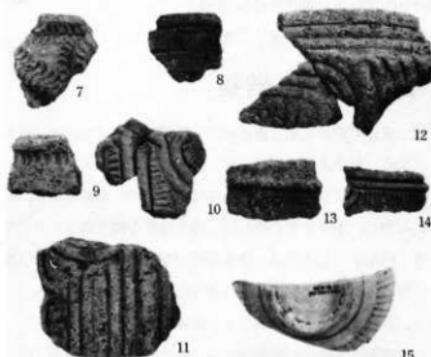
15は、古伊万里の染付碗で近世のものと考えられる。

大谷遺跡の土器 土器には、木目状撚糸文や縄文を施す19・20・22と条痕や細かな縄文を施す21・23・24があり、前者は、縄文時代中期、後者は同晩期のものである。

石器 石器は、縄文時代のもので狩猟用の石鏃、



野沢狐幅遺跡縄文時代早・前期の土器（1／2）



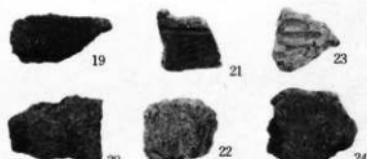
野沢狐幅遺跡縄文中期・近世の土器（1／3）



野沢狐幅遺跡石器（1／3）



野沢狐幅遺跡縄文晩期の土器（1／2）



野沢大谷遺跡縄文中・晩期の土器（1／2）

食物調理用の石皿・すり石・凹石、木工用の磨製石斧、土掘用の打製石斧、漁獲用の石錐が出土している。

磨製石斧は、蛇紋岩製で丁寧に磨き上げられており、中形の29・30と小形の28がある。

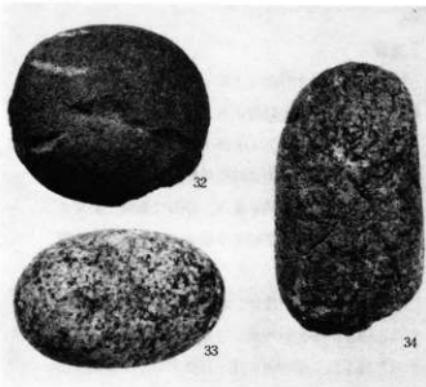
打製石斧（27）は、偏平な安山岩を両端から打ち欠きバチ形に作られている。

すり石（34）は、細長い断面三角形の河原石の一端を利用し、端部がよく使われ平用にすり減っている。出土数の最も多い石器で15個を数える。

凹石（32・33）は、丸い河原石の平坦部に2個1対の窪みを設けた石で32は、たたき石としても使用している。

31は、石錐で橢円形の平坦な礫の両端を打ち欠き、紐掛けとしている。重さは121gを計る。

25は、安山岩質の石錐で二等辺三角形に作られている。野沢狐幅遺跡 石器（1/3）



III 調査の結果

1. 立山町総合公園計画地内野沢狐幅・同大谷地内は、分布調査の結果ほぼ全域に遺物が散布し、遺跡が存在する。また、日中上野竹俣地内は、水田のため遺物が発見できなかったが、地形などから遺跡の存在する可能性をもつ。
2. 調査の結果、野沢狐幅遺跡は、縄文時代早期・前期・中期・晚期、古墳時代、近世の遺物と遺構が検出された。しかし、主体となる時代は、縄文時代中期と考えられ、数棟の住居跡を中心とする集落遺跡と推測される。
3. 検出された遺構は、縄文時代中期前葉の竪穴住居跡2棟、同中葉の竪穴住居跡1棟、竪穴住居跡または、包含層と考えられる茶褐色土の落ち込み2ヶ所、穴12ヶ所、近世以降の炭焼穴5ヶ所を確認した。
4. 遺構は、台地東側部分から先端部分にかけて多く存在し、遺物も同様の分布を示す。また、上段段丘上では、近年先土器時代の遺物があいついで発見されており、野沢狐幅遺跡にも存在することが推測されたため、台地西側部で深掘りを行ったが発見されなかった。しかし、東側部分は、縄文時代の遺構が存在するため深掘り調査を行っておらず、今後、先土器時代の遺物が発見される可能性を残す。

年表

時代	年代	野沢風 幅道跡の時代	野沢大 谷道路の時代	生活の 移り変わり	立山町 のおもな な道路	県内の おもな道路	時代	年代	野沢風 幅道跡の時代	野沢大 谷道路の時代	生活の 移り変わり	立山町 のおもな な道路	県内の おもな道路
先土器時代	3万年前	?	?	・日本にテウマン ・石刀にナイフの 文化 ・石器が小さくな る ・円矢が開拓され る	白岩坂ノ上 吉ヶ峰 田中上野東林	藏王坂(大沢野) 藏田新丸山(上市) 立 姫(福光)	A.D. 300	古墳 時代	○	・高塚古墳が作ら れる ・大集落が作られ る ・富山で須恵器が 焼かれる ・横穴古墳が築行 する	西 反 日中南平坂 辻坂の上 原尻坂 那 塚	中山南(小杉) 杉谷富山 王塚(緑中) 稻谷吉良村(孟賀) 堺ヶ平坂(新潟洞) 中山王古窯(上市) 金草古窯(富山)	
縄 文 期	1万年前 草創期 早期	○	?	・土器が開拓され る ・削穴をすまいと する ・土器に網目が付 けられる ・尖底の土器が使 用される ・穿孔工具が使用 される ・舟形土器が作 られる	天林北 吉ヶ峰 白岩尾根 二ツ塚	長 沢(婦中) 八木山(大沢野) 姫(魚津) 入 邑(福光)	A.D. 710	奈 良 時代		・國の都が平城京 に遷される ・東大寺で大仏が 作られる ・国分寺が各地に 作られる ・相模原城が作ら れる		平城古窯(小矢部) 天津吉窯(小杉)	
文 化 期	3000年前 中期	○	?	・植物織編を入れ た土器が作られ る ・複数の網目が付 けられる ・平底の土器が作 られる ・圓底のたくさん 作られる ・石器がたくさん 作られる	日中源平城 吉ヶ峰 野 口	施業寺(上市) 朝日町(水見) 越ヶ森貝塚(富山) 小竹町(富山) 黒山(小杉)	A.D. 794	平 安 時代		・國の都が平安京 に遷される ・貴族文化が盛 まる ・蛭塚が作られる	日中源平城 利田櫻松社 法光寺古窯 古峰古窯	じょうべいのま(入善) 高瀬(井波) 野田(大沢野) 京ヶ平坂(上市)	
代	3000年前 後期	○	○	・葉飾の鋸の土 器が作られる ・火薙窯がよる ・ヒスコの質器品 が使用される ・動物が形どった 文様の土器が付 けられる ・大型の石碑が作 られる	白岩坂ノ上 野沢温泉池 野沢温泉 二ツ塚 田中草ノ段 岩崎野	不動堂(朝日町) 下山 坂(朝日町) 天神山(魚津) 赤田新(大門) 小竹町(高岡) 	A.D. 1156	鎌 倉 時代		・鍛冶に幕府が開 かれる ・珠洲が焼かれる ・鐵之柱建物が一 般化する	若宮B	神 田(上市)	
	3000年前 後期	○	○	・土器の鋸の土 器が作られる ・土器の文様が単 純になる ・東北や東海地方 の影響を受けた 土器が富山に作 られる ・まじめにいか う石器が多くなる	二ツ塚 金剛所 日 水	安 丰 新(宇奈月) 赤 岩(大沢野) 青 口(井口) 本江口野新(滑川) 早月上野(魚津)	A.D. 1336	室 町 時代		・富山幕府が開か れる ・朝日の世 ・城郭が多く築か れる ・富山に中庄屋が 開かれる	若宮 A 日 の 宮(小矢部) 滑山城下町(新波) 弓 庄 塚(上市) 增 山 城(新波)		
	3000年前 後期	○	○	・北東地方の鬼ヶ 岡文化が北陸に もつたわる ・条幅土器が多くなる	白岩横骨 天林北	勝木原(高岡) 中 川(高岡) 裏 田(富山) 丸 山 A(上市)	A.D. 1600	江 戸 時代	○	・國、近の職いで 瓦窯がやぶれる ・江戸に幕府が開 かれる	越中戸窯		
再生 時代	B.C4			・水田による整地 が初まる ・金銅器が復われ る ・道賀出土器が北 陸につたわる ・方形の溝をめぐ らす窯が作られ る	二ツ塚 雅見坂道路 辻	大境湖(水見) 石 塚(高岡) 正 伊 新(上市) 裏 田(小杉)							

富山県立山町総合公園内

野沢狐幅遺跡

緊急発掘調査概要 I

発行日 昭和58年3月31日

発行者 立山町教育委員会

編集者 富山県埋蔵文化財センター

印刷者 (有)日本海印刷